こま学級　第３学年　道徳学習指導案

日時　令和４年１０月１日（土）
多摩市立東寺方小学校
こま学級３年
授業者　　信澤　典子

１．資料名　「　　ともだちや　　」内容項目　（　信頼・友情　　）

２．ねらい　　オオカミやキツネの気持ちを考えることを通して、友達を大切にしようとする心情を育てる。

３．展開

	学習活動 主な発問○と予測される児童の反応・	指導上の留意点
導入 １ ０ 分	１．○「ともだちや」というお店があったら、行きたいと思いますか。 ・知っているお店とそこで売っているものを発表する。 ・「ともだちや」で売っているものを予想する。	・売っているものとお店のマッチングゲームをして学習意欲を高める。 ・「魚や」「花や」と「ともだちや」を並べて掲示し、売っているものを考えるヒントにする。
展開 ３ ０ 分	２　キツネは「ともだちや」でどんなことをしているのだろう。 ○「ともだちや」というお店があったら行きたい、行きたくない理由をそれぞれ発表する。 ・ひまな時に一緒に遊べる。×友達がいる。 ・好きな遊びができる　　×通信ゲームができる。 ○ キツネは、どうして「ともだちや」を始めたのでしょう。 ・一人ぼっちで寂しかったから。 ・誰かと遊びたかったから。 ・遊べるし、お金ももらえるから。 ○「ともだちや」の大変なところはどこでしょう。 ・きらいないちごを食べる。など	・理由が言えない児童は行きたい・行きたくないのどちらかに挙手で意思表示をさせる。 ・『ともだちや』の絵本を読み聞かせする。 ・キツネの表情に着目させ、キツネが苦労していることに気づかせる。
	３「ともだちや」はあったほうがいいのか。 ◎ オオカミは、なぜ「おまえは、ともだちからかねをとるのか。」と怒ったのでしょう。 ・友達からお金を取るのはおかしい。 ・本当の友達になったと思ったから。 ・お金なんか持ってない。 ○最初と最後のキツネは、どこが違うでしょう。 ・『ともだちや』の旗をもっていない。 ・最初は一人だったけど、隣にオオカミがいる。 ・「何時間でもただ。」と言っている。 ・うれしそう。	・ オオカミが怒っている挿絵を張り、オオカミの気持ちを考えさせる。 ・２枚の挿絵を張り、違いを考えさせる。 ・持ち物の違いだけでなく、表情や気持ちの変化についても着目させる。
終末 ５ 分	４．自分の友達のことをかんがえよう。 ○友達がこまっていたらどうすればよいか。自分が困っていたら友達に相談できるか。	・オオカミとキツネのやり取りから嫌なことは嫌だと言えたり、困ったときに助け合えたりするのが本当の友達だということに気づかせる。